

愛臨技学術部研究班活動報告書

所属：生物化学分析検査研究班 提出日：令和 3 年 5 月 12 日 報告者：佐藤 文明

行事種別	研究会	行事番号	210000104
開催日	令和 3 年 4 月 3 日 (土) ~ 令和 3 年 4 月 16 日 (金)		
時間	開始	—	終了
場所	Web 配信 (オンデマンド配信)		
テーマ	感染症と免疫検査		
生涯教育履修点数	専門教科 20 点		
司会	—		
講師	<p>講演 1. 「免疫血清検査の基礎」 名古屋市立大学医学部附属東部医療センター 伊藤 綾香</p> <p>講演 2. 「感染症に対する免疫検査を学ぼう！」 名古屋掖済会病院 岡本 明統</p> <p>講演 3. 「新型コロナウイルス検査について」 ロシュ・ダイアグノスティックス株式会社 シニアアドバイザー 江川 孝則</p>		
内容	<p>今回実施の研究会は「感染症と免疫検査」をテーマに、講演 1 では、「免疫血清検査の基礎」と題して、自然免疫および獲得免疫についての免疫学から、免疫血清検査の測定原理、測定法と非特異反応の特徴まで幅広く講演した。講演 2 では、「感染症に対する免疫血清検査」として、主に検査されている肝炎ウイルス、梅毒、HIV、EB ウイルスについて、感染症検査について理解を深める内容であった。また、昨今の COVID-19 感染拡大を受け、免疫血清分野としての COVID-19 関連の各種検査についても講演した。</p> <p>講演 3 では、「新型コロナウイルス検査について」と題し、メーカーより講演いただき、最新の知見として各種検査の測定原理から測定感度の違い、および適応範囲まで COVID-19 関連検査のトピックスを講演した。昨今、COVID-19 関連検査および試薬は各種メーカーより多数上市されており、各施設においては検査法・試薬・性能仕様の違いをしっかりと理解し、選択することが必要である。また、国内でのワクチン接種も開始しており、抗体検査についての有用性についても報告され、免疫血清分野としても注視していくべきと考える。今後も最新の知見を配信することで、各施設・会員の一助となれば幸いである。</p>		
参加者	総数：102 名 (愛臨技会員 78 名、県外会員 24 名)		
共催、後援など	なし		

愛臨技学術部研究班活動報告書

所属：生物化学分析検査研究班 提出日：令和 3 年 8 月 5 日 報告者：佐藤 文明

行事種別	研究会	行事番号	210000654
開催日	令和 3 年 7 月 3 日 (土) ~ 令和 3 年 7 月 16 日 (金)		
時間	開始	—	終了
場所	Web 配信 (オンデマンド配信)		
テーマ	甲状腺について学ぼう!		
生涯教育履修点数	専門教科 20 点		
司会	—		
講師	<p>講演 1. 「甲状腺の基礎と疾患」 名古屋第二赤十字病院 吉川 実季</p> <p>講演 2. 「甲状腺に関する各種検査」 名古屋市立緑市民病院 清水 和樹</p> <p>講演 3. 「甲状腺機能の基礎と検査および TSH ハーモナイゼーションの状況」 アボットジャパン合同会社 学術情報室 村上 聡</p>		
内容	<p>今回実施の研究会は「甲状腺」をテーマに、講演 1 では、「甲状腺の基礎と疾患」と題して、甲状腺に関する基礎知識、また甲状腺疾患について基礎的知識向上を目的とし講演した。講演 2 では、「甲状腺に関する各種検査」として、TSH をはじめとする甲状腺各種検査についてまとめて講演した。また、各検査における臨床的意義を踏まえ、鑑別診断についても纏め、分かり易く解説した。代表的な甲状腺疾患の症例を踏まえ、甲状腺関連検査および、その他検査データからも症例を読み取る演習も盛り込んだ内容であった。講演 3 では、「甲状腺機能の基礎と検査および TSH ハーモナイゼーションの状況」と題し、メーカーより講演いただき、最新の知見として TSH ハーモナイゼーションに関して、概要から本取り組みの経緯・進捗状況が詳しく纏められており、ハーモナイゼーションの動向を確認することができる内容であったと言える。TSH ハーモナイゼーションに関しては、IFCC 基準適合検査値の運用につき、各施設においての判断・留意すべき点がある。以上を踏まえ、試薬間差のない共通の指標を用いた診療環境を早く整備することで、医療の質の向上を図るべきと考える。</p> <p>今後も最新の知見を配信することで、各施設・会員の一助となれば幸いである。</p>		
参加者	総数：160 名 (愛臨技会員 130 名、県外会員 30 名)		
共催、後援など	なし		

愛臨技学術部研究班活動報告書

所属：生物化学分析検査研究班 提出日：令和 3年 11月 29日 報告者：佐藤 文明

行事種別	基礎講座	行事番号	210006065	
開催日	令和 3年 10月 24日 (日)			
時間	開始	9:00	終了	12:00
場所	Web配信(ライブ配信)			
テーマ	精度管理【実務編】～押さえるべきポイントは?!～			
生涯教育履修点数	専門教科 20 点			
司会	藤田医科大学 岡崎医療センター 西垣 亮			
講師	<p>講演1.「分析前の精度管理～ピベットの使い方や校正～」 愛知医科大学メディカルクリニック 森部 龍一</p> <p>講演2.「管理試料の取り扱い」 日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院 尾崎 靖将</p> <p>講演3.「検体検査の精度管理」 藤田医科大学病院 井上 結以</p> <p>講演4.「精度管理の考え方 - 臨床検査における精度管理の考え方および不確かさの考え方 -」 アボットジャパン合同会社 学術情報室 村上 聡</p>			
内容	<p>今回実施の基礎講座は「精度管理【実務編】」をテーマに、講演1では、「分析前の精度管理～ピベットの使い方や校正～」と題して、分析前段階における精度管理の根幹となるピベット操作について講演した。講演2では、「管理試料の取り扱い」として、精度管理試料の種類や取り扱いについて講演した。講演3では、「検体検査の精度管理」と題し、内部精度管理として取り扱う試料、管理図および管理手法について、また外部精度管理として外部精度管理の特徴、参加意義および評価の仕方について、広く講演した。講演4では、「精度管理の考え方- 臨床検査における精度管理の考え方および不確かさの考え方 -」と題し、不確かさやトレーサビリティの考え方を中心に、基礎から応用の部分まで講演した。今回、Google フォームを活用し、ライブ配信中に設問を提示し、回答いただいた結果を即時集計・提示した。他施設の状況を参考までに参照・把握できるような企画を行うことで、今一度自施設における精度管理を見直すきっかけとなったと考える。今後も最新の知見を配信することで、各施設・会員の一助となれば幸いである。</p>			
参加者	総数：64名(愛臨技会員 34名、県外会員 30名)			
共催、後援など	なし			

愛臨技学術部研究班活動報告書

所属：生物化学分析検査研究班 提出日：令和 3年 11月 29日 報告者：佐藤 文明

行事種別	基礎講座	行事番号	210007426
開催日	令和 3年 11月 1日 (月) ～ 令和 3年 11月 14日 (日)		
時間	開始	—	終了
場所	Web配信 (オンデマンド配信)		
テーマ	精度管理【実務編】～押さえるべきポイントは?!～		
生涯教育履修点数	専門教科 20 点		
司会	—		
講師	<p>講演 1. 「分析前の精度管理～ピペットの使い方や校正～」 愛知医科大学メディカルクリニック 森部 龍一</p> <p>講演 2. 「管理試料の取り扱い」 日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院 尾崎 靖将</p> <p>講演 3. 「検体検査の精度管理」 藤田医科大学病院 井上 結以</p> <p>講演 4. 「精度管理の考え方」 — 臨床検査における精度管理の考え方および不確かさの考え方 — アボットジャパン合同会社 学術情報室 村上 聡</p>		
内容	<p>今回実施の基礎講座は「精度管理【実務編】」をテーマに、講演 1 では、「分析前の精度管理～ピペットの使い方や校正～」と題して、分析前段階における精度管理の根幹となるピペット操作について講演した。講演 2 では、「管理試料の取り扱い」として、精度管理試料の種類や取り扱いについて講演した。講演 3 では、「検体検査の精度管理」と題し、内部精度管理として取り扱う試料、管理図および管理手法について、また外部精度管理として外部精度管理の特徴、参加意義および評価の仕方について、講演した。講演 4 では、「精度管理の考え方 - 臨床検査における精度管理の考え方および不確かさの考え方 -」と題し、不確かさやトレーサビリティの考え方を中心に、基礎から応用の部分まで講演した。今回、10月 24日 (日) 開催の基礎講座 (ライブ配信) のオンデマンド配信を行い、当日ライブ配信に参加された会員の復習、および参加できなかった会員向けに広く配信し、多くの会員ご施設における精度管理の見直しのきっかけとなったと考える。今後も最新の知見を配信することで、各施設・会員の一助となれば幸いである。</p>		
参加者	総数：126名 (愛臨技会員 74名、県外会員 52名)		
共催、後援など	なし		

愛臨技学術部研究班活動報告書

所属：生物化学分析検査研究班 提出日：令和 4 年 1 月 4 日 報告者：佐藤 文明

行事種別	講演会	行事番号	210011702
開催日	令和 3 年 12 月 4 日 (土) ~ 令和 3 年 12 月 17 日 (金)		
時間	開始	—	終了
場所	Web 配信 (オンデマンド配信)		
テーマ	臨床化学検査における試薬検討の基礎知識		
生涯教育履修点数	専門教科 20 点		
司会	—		
講師	<p>講演 1. 「試薬検討の基礎知識 (前編)」 日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院 吉川 実季</p> <p>講演 2. 「試薬検討の基礎知識 (後編)」 株式会社グッドライフデザイン 小栗 美里</p> <p>講演 3. 「自動分析装置の基礎と測定原理について」 日本電子株式会社 ME 技術サポートセンター 応用研究グループ 森田 紗世</p>		
内容	<p>今回の講演会では、AicCLS より手引書発刊を受け、「臨床化学検査における試薬検討の基礎知識」をテーマに、講演 1 では、「試薬検討の基礎知識 (前編)」と題して、正確さ、精度、検出限界、定量限界、直線性、範囲についてまとめて講演した。また、妥当性確認と検証の違いにも触れ、再確認いただく内容となった。講演 2 では、「試薬検討の基礎知識 (後編)」として、相関性、共存物質の影響、検体保存安定性、コンタミネーション試験、患者試料の取り扱いについてまとめて講演した。講演 3 では、「自動分析装置の基礎と測定原理について」と題し、メーカーより講演いただき、臨床化学分野における自動化の変遷から、自動分析装置の基礎として測定機序、更には応用として反応過程の見方や装置パラメータを踏まえ測定結果を読み解く方法など幅広い知識を習得できる内容であった。昨今、分析装置の自動化が進み検査精度が向上する半面、機器や試薬の性能・原理を正しく理解せず、誤った解釈・取り扱いにより、予期せぬ過誤を発生させる可能性がある。本講演では基礎的検討の内容について改めて学ぶことで、機器・試薬性能についての理解を深め、その性能を適正に評価できる技師育成に寄与できるものと考え。今後も最新の知見を配信することで、各施設・会員の一助となれば幸いである。</p>		
参加者	総数：132 名 (愛臨技会員 90 名、県外会員 39 名、賛助会員他 3 名)		
共催、後援など	なし		

愛臨技学術部研究班活動報告書

所属：生物化学分析検査研究班 提出日：令和 4 年 3 月 8 日 報告者：佐藤 文明

行事種別	研究会	行事番号	210015313
開催日	令和 4 年 2 月 5 日 (土) ～ 令和 4 年 2 月 18 日 (金)		
時間	開始	—	終了
場所	Web 配信 (オンデマンド配信)		
テーマ	令和 3 年度愛臨技精度管理報告		
生涯教育履修点数	基礎教科 20 点		
司会	—		
講師	<p>講演 1. 「臨床化学部門 精度管理報告」</p> <p style="text-align: center;">刈谷豊田総合病院 神谷 美聡</p> <p style="text-align: center;">藤田医科大学岡崎医療センター 西垣 亮</p> <p>講演 2. 「免疫血清部門 精度管理報告」</p> <p style="text-align: center;">豊橋市民病院 森下 拓磨</p> <p>講演 3. 「免疫検査のピットホールと精度管理」</p> <p style="text-align: center;">シーメンス・ダイアグノスティクス株式会社 アッセイ・ケイティンググループ グループマネージャー</p> <p style="text-align: center;">荻原 貴裕</p>		
内容	<p>今年度実施の愛臨技精度管理報告として、講演 1 の臨床化学検査部門では 126 施設が参加され、昨年度と比べ 4 施設増えた。アルブミンに関しては、依然 BCG 法、BCP 法が採用の施設もあるが、約 90% が BCP 改良法で統一されている。ALP、LD に関しては、今回のアンケート結果より、IFCC 法へ変更済み、または変更予定である施設の割合は 98% と、概ね移行が完了されていることが確認できた。また報告値に関しては、JSCC 法 (換算値含む) を一定期間併記報告する施設と、IFCC 法のみで報告する施設がおおよそ半々の結果となった。今後も継続して情報提供に努めていきたい。また、JCCLS 共用基準範囲を採用する施設も昨年度平均 39% から平均 57% へと増加傾向にあることが確認できた。講演 2 の免疫血清部門では TSH のハーモナイゼーションの動向を確認し、半数を超える施設で IFCC 標準化法への移行完了が確認できた。また、移行予定の施設を合わせると 85% と順調に移行されていることが確認できた。講演 3 では、シーメンス社より免疫検査のピットホールと精度管理について講演いただき、多岐に渡る視点からの知見が得られた。今後も最新の知見を発信すべく、努めていきたい。</p>		
参加者	総数：94 名 (愛臨技会員 72 名、県外会員 20 名、賛助会員他 2 名)		
共催、後援など	なし		